

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハミング ことばとからだところの教室		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎時、面談時に保護者と事業所職員の情報共有が密に行われている。	送迎時には必ず利用日の様子や取り組んだこと、できたことについて連絡帳のみでなく、口頭でも伝えている。	通信の内容を活動内容について充実させることで、より家族に事業所での様子が伝わるようにする。
2	事業所を清潔に保つ意識が高い。	利用者の目線に立って気持ちよく使えるように意識して清掃を行っている。 利用児が重心児ということにも意識をしている。	まだ、不完全が部分もあるため、より清潔で快適な空間となるにはどのようなアプローチが必要かを考え続ける必要がある。
3	入浴支援を行うことができる。	事業所内に入浴設備を整え、入浴介助を行えている。	利用者さんのニーズに合わせてより安心快適に入浴をしてもらえるように時間や方法の検討、調整を行っていく。
4	ノーリフトケアと残存機能の維持・促進を目指したケアや支援を行う。	移動用リフトの導入や、排泄を可能な限りトイレで行うようにしている。	排泄行為が、安全にかつ、本人の機能が最大限生かした中で行えるように、トイレ内のリフトの設置など、安全に配慮した環境に合わせた道具の検討を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活の流れが固定化されてきており、一本調子の支援になってしまっている。	生活の流れが緩やかであるため、平日、休日の差異を作ることができていなかった。	特に長期休暇の生活については、季節にあった行事や平日に行うことのできない活動、日常で触れづらい活動の企画、提供を行っていく。
2	活動の企画が季節の行事の有無に左右されて回数が極端に変わってしまう。	職員個人の発想力や季節に頼らない児への活動内容の企画ができていなかった。	利用児個人の能力向上のため、制作など季節に頼らない発案を行う。手先を使うおもちゃの作成や、目線を動かすもの、触覚刺激を受けるものを提案していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ハミング ことばとからだところの教室

公表日 2025年2月1日

利用児童数 2024年12月31日 7名

回収数 7枚

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6			1		通信等、と随時見学
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1				
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6			1		通信等、と随時見学
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	6			1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。		2			5	長期休暇中の活動に地域の児を招待することも検討する。（七夕、クリスマス会、夏祭り等）
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6	1				契約時に説明を行っている。支援プログラムはホームページに公表していることを通信で伝える。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1			4	送迎時や面談時に困り感について聞き取りを行い、療育の現場で上手くいった対応方法や、家庭でもできる支援方法について伝える。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	7					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7					
	17 事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	7					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	1		3	法人の行事（けやき祭り）の案内を出し、家族間や兄弟間の関わりが取れるようにしていく。 アンケートを行い、必要性の有無によって保護者同士の交流が取れる機会を作る。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6			1		現在月に1回の通信を配布しています。自己評価については法人HPにアップされたら通信でお知らせします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			3		通信に活動の内容について掲載していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			3		通信に活動の内容について掲載していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			2		通信に活動の内容について掲載していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			2		常に事故が起こらないように努めています。万が一起きてしまった場合は、すぐに処置を行い、保護者へ連絡をさせていただきます。状況説明を行っています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7					
	29	事業所の支援に満足していますか。	7					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ハミング ことばとからだところの教室			公表日	2025年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1		広さとしては十分なため、空間の構造化を行い、場所によって空間を分ける。必要時パーテーションなどを使用する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1		送迎時間が重なるため、送迎を行う時間や職員配置を工夫していく必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	バリアフリーになっている。	空間の構造化や時間の構造化など、構造化が不十分のため、今後の課題となっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	カーテンで仕切られている空間がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2	事業所ノートを作り、確認するようにしている。	伝達だけでなく、ミーティングの時間の工夫を行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4		現状実施していない。必要に応じて、法人と検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	1		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	0		保護者からの聞き取りのみで終わっている。今後は、利用開始前においては、事前に情報交換できるようなシステム作りを行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1		地域の公民館や図書館などに行く機会を設ける。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	1	事業所としての参加はないが、法人の代表者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	0		就労している保護者が多いため、現状はおこなっていないが、保護者からの希望があれば、必要に応じておこなっていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	4	1	事業所としては、行っていないが、法人主催の祭りがあり、地域住民や学校や自治体に広く周知している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0	毎月、発行している通信にてお知らせをしている。	内容としては、まだ十分のため、内容を充実していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットの提出を促している。内容を毎月検証している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	研修を毎月、行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	計画書説明の時に説明し同意をもらっている。身体拘束した場合のフローが決まっている。		